

目指す学校像	「たくましく 学びを紡ぐ やなぎの子」「やりぬく子、なかま思いの子、きまりをまもる子、のびる子・のびず子、こころざしをかかげる子」の育成
重点目標	1 ICTを活用しながら確かな学力を身に付け、学ぶ楽しさを実感させる事業の実践 2 安全・安心な教育環境を提供できる組織的な体制(予防・緊急対応・事後指導) 3 小中合同の学校運営協議会での地域との方向性の共有と実践 4 教職員一人ひとりがやりがいと居場所が感じられる組織的な職場環境創り

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成 (8割以上)
成	B	概ね達成 (6割以上)
度	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○国の学力調査では、算数で向上が見られたようだが、市の学習状況調査が実施されなかったことで学校全体での客観的な評価は難しいところもある。ただし、コロナの影響がある中でも年間の学習内容についてほぼ実施された。 ○タブレットPCを活用したハイブリッド授業が進められている。 ○オンライン授業のおかげで、登校を控えていた児童の学びを止めなかったのはよかった。 <課題> ○ハイブリッド授業の様子を保護者や地域に公開する機会が少なかった。 ○タブレットPCの毎日の持ち帰りは、重量から考えて児童の負担になるので心配である。	・教育DXで実現させる学びの自律と個別最適化 ・ICTを活用して学ぶ楽しさを実感させる授業実践	①個に応じた成績や出席情報、学習履歴を可視化することで「個別学習計画」につなげ個人の学びに何が必要なのか理解させ「個別最適な学び」を目指す。 ②スタディサプリやドリルパークの学習履歴をもとに自分の弱点を理解させ、学習計画を立てる。	① 令和4年度の学校評価児童アンケートで「勉強をあきらめないで、目標としたところまでやりとげた」で肯定的な回答で95%以上となったか。 ② 令和4年度の学校評価児童アンケートで「タブレットPCを活用した学習に進んで取り組んだ」で肯定的な回答が95%以上となったか。	① どのクラスも学習規律が整っていたが、「勉強をあきらめないで、目標としたところまでやりとげた」の項目で肯定的な回答は92%であった。 ② スタディサプリを活用して、自分やクラスの動画視聴時間、確認テスト完了講義、問題回答数を計画的に実施できた。	B	① 各教科でタブレットPCやプロジェクトを効果的に活用することで授業も始めの導入を更に工夫し、学習意欲を高める。 ② 次年度もスタディサプリで動画視聴時間、確認テスト完了講義、問題回答数、最終ログイン日時を効果的に活用する。	・コロナ禍がもたらした世の中の変化はDXやICTといった言葉が独り歩きして教職員、児童、家庭それぞれにデジタルデバイドを生じさせていないかが心配である。 ・ポストコロナと言われ始めた今こそ改めてその検証が必要ではないか？ ・子どもたちのやる気が大事ではないだろうか。 ・タブレットを朝から活用できているのはすごいと感じる。
2	<現状> ○児童の運動不足から怪我が多くなっていることを共通理解し、各教科での安全対策(コースロープの修繕、理科や家庭科における火傷に対する注意喚起等)を図った。(怪我は昨年度2学期までに114件減少) ○昨年度、4月から現在まで廊下や教室の換気をしたり、ボールなどの共有物使用後の手指消毒をしたりすることを継続して新型コロナウイルス感染症対策を実施している。 <課題> ○感染症予防のための「新しい生活習慣」の継続と緩和の判断を市教委や近隣校の情報をもとに適切に判断する。 ○学校内及び登下校の安全確認を教職員、保護者、地域の情報をもとに総合的に判断する。	・児童一人ひとりの教育的ニーズに基づいた指導・支援が行えたか。 ・安全安心な学校生活を児童が意識しながら活動できたか。	①毎学期の「心と生活のアンケート」及び毎月の簡易アンケートの適切な早期の確認、内容によって面談を実施して組織的に児童の心の状態を把握する。 ②校内委員会(教育相談・生徒指導委員会)での教職員、SC、SSWでの共通理解、組織的な対応	① 保護者アンケートの「子どもは困ったことや心配なことを教職員や保護者等の大人に相談できる」で昨年度83%から85%以上となったか。 ② 学校評価・教職員アンケート「生徒指導・教育相談・特別支援教育は、全教職員の共通理解と協力によって進められている」で肯定的な意見が95%以上になったか。	① 保護者アンケートの「子どもは困ったことや心配なことを教職員や保護者等の大人に相談できる」は、88%であった。 ② 学校評価・教職員アンケート「生徒指導・教育相談・特別支援教育は、全教職員の共通理解と協力によって進められている」で肯定的な意見が95%であった。	A	① 否定的な意見が12%あった事実を深刻に捉え、次年度も「心と生活のアンケート」や毎月の「簡易アンケート」を大切に活用する。日常の担任からの行動観察や言葉かけに配慮させる。 ② 昨年度の反省を踏まえ、生徒指導委員会と教育相談委員会を別々ではなく、全職員で実施することで共通理解を図れた。	・毎月ごとの学校評価がアンケートの結果という定量化された客観データのように扱われている。手法のひとつであると思うが「相談できる」が100%を目指すのか?その為にどのような方策を立てるのか考えてほしい。 ・方策は数多くあって良いもの。 ・学校が楽しく児童が思える教育を実践してほしい。
3	<現状> ○学校運営協議会の立ち上げから4年目となり、昨年度から片柳中学校と合同の学校運営協議会を実施した。コロナ感染症対策のため残念ながらここ2年間は地域の行事に児童があまり参加できていない。 ○授業参観や運動会の保護者の人数を時間で分割したり、人数制限したりした。 <課題> ○コロナ対策として各行事での保護者の人数を制限しなければならなくなっている。	・小・中合同の学校運営協議会の更なる推進 ・保護者や地域への各行事及びタブレットPCを活用した授業の公開・体験	①小中合同研修会で小中での確認事項(校則やあいさつ運動等)をデータ化して、学校運営協議会での御意見を受け、より良いものを残す。	① 学校運営協議会で小学校の「やなぎっ子の約束」や中学校の「校則」、取り組みの共通理解ができたか。	① 学校運営協議会で小学校の「やなぎっ子の約束」や中学校の「校則」、取組を説明し理解を得られた。今年度は、運動会や授業の参観をすることができた。	B	① 次年度は、新型コロナウイルス感染症予防を徹底しながらも、多くの行事で地域や保護者に学校を公開し、理解を得る。	・学校運営協議会から更にメンバーを絞り込んだ「片柳学園構想推進協議会」や「片柳クラブ運営協議会」等地域主体の組織に発展し行政発信の受け皿に積極的になっていければ良いのではないかと考えている。 ・専門部会を立ち上げ、実践してほしい。
4	<現状> ○管理職で分担しながらの教室訪問により、学級の実態を適宜把握し、指導困難な状況の場合、SAを多く配置したり、校長室で児童を預かったりした。 <課題> ○教職員によってICTの授業スキルの差がある。 ○教員の時間外在校時間の縮減が十分ではない。	・教職員一人ひとりがやりがいと居場所が感じられる組織的な職場環境創り	①初任者1人、2年次3人を中心に声をかけ、教室訪問後、良かったところを認める。同様に、教室訪問した先生方にも感謝の気持ちをもって、ICTの活用等の良い所を伝える。 ②校長の自己評価を参考に作成した自己評価シートで一人ひとりの目標を確認し、指導、助言をしてやる気を高める。	① 学校評価・教員の「学校目標が正しく理解し、児童の日常生活の指導の中で生かすことができた」で肯定的な意見が95%以上になったか。 ② 教職員にビルドアンドスクラップの考えを浸透させ、自分流の働き方改革が1つ以上できたか。	① 学校評価・教員の「学校目標が正しく理解し、児童の日常生活の指導の中で生かすことができた」で肯定的な意見が95%であった。 ② 教職員の働き方改革に対する意識が変わり、昨年度に比べ、1か月平均10時間の残業時間の減少になった。	A	① 次年度、開校150周年という歴史の重みを大切にし、児童を中心して学校、保護者、地域が同じ目標をもち、協力していく。 ② 教職員の時間外残業時間が減少するように、通知表の見直し、教育課程の工夫を試みる。	・学校教職員の労働環境は民間企業の働き方改革の進捗と比較してもあまりに遅れている。この数年かけて民間企業が取り組み成果を上げてきた手法を学校現場に取り入れるべきと思う。 ・報告文書を作成する時間をもっと子どもたちにあててほしい。

学校運営協議会による評価  
 実施日令和5年2月27日  
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等